

巻頭言

日本原子力学会 炉物理部会 部会長
名古屋大学 山本章夫

炉物理研究と鬼十則¹

以下、「仕事」「サービス」は「研究」と置き換えて読んでいただければと思う。

1. 仕事は自ら創るべきで、与えられるべきでない。

学生や新入社員は、研究テーマや仕事が指導教員や上司から与えられる/指示されることが多いかもしれない。しかし、それが当たり前と思ってはならない。研究とは、本来自ら考えて研究テーマを設定する(作り出す)ものである。いつかは、研究テーマや仕事を指示する立場になることを頭に置いた上で、自ら研究テーマを探ることができる能力を身につけよう。このような能力は、一朝一夕には身につかない。色々な試行錯誤を繰り返し、テーマを探すスキルを向上させていくことが肝要とであろう。

2. 仕事とは、先手先手と働き掛けていくことで、受け身でやるものではない。

研究は、本来、人から言われてやるものではない。つまり、指示に従って受け身でやるのではなく、自律的にこれを進めることが望ましい。人から言われてやる仕事に比べ、自分の意思で進んで取り組む研究の方が、遥かにやる気が出ると思う。また、分からない点、解決できない点については、他からフォローがあるまで受け身で待つのではなく、他に働きかけて解決することが必要であろう。特に学生は、指導教員を「使い倒す」ぐらいのつもりで良いのではないだろうか。

3. 大きな仕事と取り組み、小さな仕事は己を小さくする。

見通しが良く結果が見えている、言い換えるとリスクの低い研究は、一般的にリターンも小さいであろう。ハイリスクハイリターンの研究、あるいは、これまでに経験のない分野を含む広いスコープの研究に取り組むことは、研究者としての能力を大きく向上させるのではないか。

4. 難しい仕事を狙え、そしてこれを成し遂げるところに進歩がある。

難しい研究に取り組み、四苦八苦する過程で新たな気づき、新たな発見が得られることが多い。山登りと同じであり、キツイ登りをこなすことこそが標高を稼ぐ最も効率的な方法である。

¹ 電通 吉田秀雄氏による。

5. 取り組んだら放すな、殺されても放すな、目的完遂までは…。

難しい研究に粘り強く取り組むことにより、大きな研究成果が得られる。もっとも、成果が全く上がらず、時間だけが過ぎていくリスクもあるところが難しい。学術研究では、「目的完遂」まで一直線にいかないケースが多いため、ある一つのテーマのみに取り組んでいると、「煮詰まって」しまうことも大いにあり得る。複数のテーマを同時平行で扱うことができれば、「煮詰まってしまう」リスクを減らせるかもしれない。

6. 周囲を引きずり回せ、引きずるのと引きずられるのとでは、永い間に天地のひらきがで
きる。

自分が主導して新しい研究分野を開き、その研究分野に他の研究者が参入してくることは、研究者としての大きな成功であり、大きな喜びであろう。

7. 計画を持て、長期の計画を持っていれば、忍耐と工夫と、そして正しい努力と希望が生
まれる。

研究は計画通りには進まないことが多い。しかし、研究通りに進まないからという理由で計画を立てないと、大局的に研究の進め方を誤ることになる。計画とは、航海における海図とコンパスのようなもの。道に迷った時に進む方向を確認する重要なものである。

8. 自信を持て、自信がないから君の仕事には、迫力も粘りも、そして厚味すらがない。

自分が取り組んでいる研究では、自分は第一人者であるという自信を持とう。謙遜や遠慮は不要である。ただし、これは偉そうにして良いということではないことに留意。

9. 頭は常に全回転、八方に気を配って、一分の隙もあってはならぬ、サービスとはそのよ
うなものだ。

研究には、このような姿勢で取り組みたいものである。ただし、常に全力である必要はない。新しいアイデアは、往々にしてリラックスしている時に閃く。

10. 摩擦を怖れるな、摩擦は進歩の母、積極の肥料だ、でないと君は卑屈未練になる。

他人と議論しよう。他人との意見の違いがあれば、それを喜ぼう。意見の多様性は、研究を進める絶好のネタであり、動力源である。

使用上の注意

この「鬼十則」を他人に強制することは、ハラスメントの温床になる可能性があり、私としてはオススメしない。自らの姿勢を考える際の参考にしたいためである。なお、世の中には、「裏十則」というものもあるそうだ。こちらも別の意味で味わい深い。検索してみて、こちら

も合わせて読んでみると良いのではないだろうか。

(2019 年 8 月 9 日)